

人・農・自然の手を結び

花咲き誇る里山を守る



「美しい里山の緑の中で、可憐な花を守り育てる。実に楽しいボランティアですよ」と皆さんにっこり。「その人その人に合った活動があります。ぜひ一緒に活動してみませんか。会員募集中です！」

<花の宴>

次回イベントは4月を予定(お花見や自然探索、餅つきなど)。詳細はお問い合わせください。

<山野草の里づくりの会・会員募集>

老若男女、力仕事が苦手な方でもOK。活動は毎週水曜・土曜、参加はいつでも自由。土曜は野草や無農薬野菜を使った料理を味わう。

「会員の多くは他府県の方。地元の参加を期待しています！」
年会費3,000円 入会金1,000円

〒桜井市三谷528 *三谷地区とその周辺で活動。
*電車利用の方は長谷寺駅まで出迎えあり。

☎0744-44-4333 (福岡)

🌐www.sanyasou.org/

春頃、山地や高原の草地に生えるスズラン。奈良県が分布の南限であり、県が絶滅寸前種に選定。現在、三谷地区に自生する山野草は600種以上。



夏に花咲く絶滅危惧種(県選定)のユウスゲ。「山野草を栽培するのではなく、自然に生えてくる環境をつくっていくのがポイントです」

ザクツ、ザクツ。鎌をふるって繁った笹や野草を刈り込むと、希少な山野草がひょっこりと顔を出し、会員たちの顔に笑みがこぼれます。「この花はコシオガマ。消えかけていたのが、今ではあちらこちらに咲いています」と目を細めるのは「山野草の里づくりの会」理事長の福岡定見さん。

会が発足した約10年前は、農林業の担い手不足などで、里山は荒れ放題。昔ながらの花咲く里山を今一度目にしたいと、18人の有志が立ち上がりました。竹やぶに変わり果てた遊休農地を開墾し、赤花そばや野菜を栽培。山野草の自生地を整備し、調査や管理に栽培も。冬には山野草に日の光を当てるためにと山に入っ

て枝をはらい、チェーンソーをうならせます。「人、農、自然が仲良く手を結んで初めて、里山の美は息を吹き返すんですよ」。現在、会員は46人。週2回、精力的な活動を続け、里山を守ります。年4回(4・6・7・10月)、「花の宴」と名付けたイベントを開催し、山野草を料理したり、ソバ打ちをしたり。子どもたちに里山の自然に触れてもらいたくて、「みんなでいかそうピオトープ」というイベントを毎月行っています。

「こんなきれいな景色もあるんですよ。守っていかねければ」と思ってもらえたら。うらかな自然を楽しむイベントは「ホタル狩り」などもあり、毎回多くの人出でにぎわいます。山野草の里を守りたい。次の世代に伝えたい。切なる願いが活動の原動力となり、人を呼び込み、可憐な花の息吹を蘇らせています。

桜井市三谷地区

「NPO 法人 山野草の里づくりの会」



「奈良・もてなしの心推進県民会議」では、生き生きとした生活や交流を育むまちづくりを実践している地区を、「もてなしのまちづくりモデル地区」として認定。桜井市三谷地区もその一つです。



山野草の自生地で、草刈り作業を行う皆さん。精魂傾けての活動は広く認められ、国から賞や感謝状が贈られるほど。